

環境教育

委員：岡本（リーダー）、島（サブリーダー）、梶野、船本 [南垣内、黒飛]

事務局員：村井、吉留

[]は当日欠席委員

人材

- 地域の核となる人が少ない
- 環境教育指導者育成が弱い
- 青少年ボランティアなど養成ができていない
- 人材養成が必要である
- 学校での継続的な教育、教育するための人材 持続可能な教育ができていない

組織

- 教育を推進するヒト、団体が見えにくい。（その中での環境政策課の役割は？）
- 環境教育推進の組織がない。

情報公開

- 情報共有のためのネットワークが弱い
- 「環境」情報が一般に届きにくい
- 施策の進捗状況に対する評価が自己評価のみで、第三者による評価がなされていない。
- 環境教育手法が常時見られる場がない
- 奈良市独自の環境教育の姿勢が見られない。奈良市の現状を伝えきれていない
- 学校だけに押しつけない、NPO など知らない人が多い
- 情報がない

学校

- 幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校で定期的な環境学習がない
- 学校教育は教育委員会の範囲で、役所内で連携できていない
- 他の担当課との取り組みになる場合、環境政策課がリードできているか、単に窓口になっていないか
- 意識の向上 とっつきにくい わかりやすい授業がない

行政

- 市役所内での活動がわからない
- こどもエコクラブが有効活用されていない

地域

- 自治会などで環境学習する場がほとんどない
- 環境に関する生涯学習講座が少ない
- 環境に興味のない人に対して意識を持ってもらうのが難しい
- 家庭で教育する（しつける）ことができない、親の世代の意識が希薄
- イベントなど一過性になってしまい、継続した啓発につなげられない

○各立場の現状把握
掘り起こし
(学校)

プログラム・内容

- 生き物教育→（地球温暖化）
- プラスチックごみが鹿に危険であることが伝わっていない
- 手入れがされず、荒れた森林が増えている
- 水質汚濁の現状がわからない
- ゴミ問題の現状が伝わっていない
- 小学校で地球温暖化対策などの共通プログラム（授業）がない
- 環境教育プログラムの提供がほとんどない
- 独自の環境プログラムが見当たらない
- 推し進めていく教育内容、目標が具体的でない
ある程度数値化してもよいのでは？

教育の場

- 地域内で環境体験をする「場」がほとんどない
- 環境体験を行える「場」が整備されていない
- 地域で学ぶ環境教育の場が少ない ○環境教育の拠点となる場がない
- 環境に関する知識の詰め込みに偏っていて、実践まで 踏み込めていない
- 都市部に自然とふれあえる場が少ない
- 簡単に自然と触れ合える場所が近くにない、知らない
- 体験型の教育の場がない
- 定期的な環境体験活動が提供されていない

山・森・空気

- ① 山間部では、林業が衰退（担い手の高齢化や人材育成の不足、安価な外材の影響）し、間伐が行われていない
- イ 人工林（スギ、ヒノキなど）の手入れ不足で暗い森になっている
 - ロ 豊かな森を残す（人工林が荒れている）
 - ハ 森林の保全（間伐材の利用にあたり、人件費等で採算が合わないことが問題になっている）
- ② ナラ枯れ、シカの増加に伴う採食（樹木の種子など）や樹皮はぎにより、春日山原始林の立ち枯れが目立つ
- イ 春日山原始林（世界遺産）の保全と再生に全力をつくす
 - ※ 春日山原始林には、シカ避けがない（樹皮はぎを防ぐ金網はある）
- シカの食害については、動物・植物に関わる問題でもある
- シカの頭数（約 1000 頭）が増えすぎ、山間部では、シカが農産物の芽を採食している
- ③ 竹林の整備不良により竹が周囲に拡がり、雑木林や人工林が駆逐されている（生物多様性が守られていない）
- ④ 西部では、大規模な開発が進むことにより、自然（森林）が失われている
- ⑤ 林業の衰退に伴い、森林の存在価値が問われるなか、近代的な森林の利用がされていない（例えば、森林セラピーロードやパワースポットとして認定を受けるなど）
- ※ 奈良市では、春日大社がパワースポットとして挙げられている
- ⑥ 街路樹の剪定の時期が早く、落ち葉が落ちないように過度に剪定され、景観が悪くなっている（例えば、学園前、鴻池～やすらぎの道）
- ※ 市民との協同（アダプトプログラム）により、落ち葉を拾い、堆肥化し肥料にするなどの工夫が必要（仙台では、肥料で配っている）
- イ 街路樹、公園の管理が十分でない（人間本位でやられている）
 - ロ 花と緑のまちづくりができていない（街路樹の整備、都市緑化の推進）
- ⑦ 市街地に木が少ない
- イ 市街地（市役所の周辺など）において、夏場が暑すぎる（奈良公園は、暑くない）
 - ロ 森林の創生（第2の奈良公園を作る・松枯れの防止）

農地

- ① 農地や緑地が放置され、荒れている
- イ 農地や緑地の保全と活用ができていない（観光農業（グリーンツーリズム）として利用するなど）
 - ロ 山間部では、過疎化により農業の担い手が少なく、放置された農地が荒れている
 - ハ 地産地消のサイクル作りができていない

動物・植物

- ① 有害獣（クマ、イノシシ、シカなど）の被害が増え、山間部の畑には防護柵がめぐらされている（経済的損失）
 - ※ ドングリがなく、有害獣が人里に近づいてきている
- ② 森や草原がなくなり、動物が少なくなっている（動物が管理されていない）
- ③ 外来種が増え、在来種が減ってきている
 - ※ アライグマによる農作物被害、セイタカアワダチソウ、猿沢池の外来カメなど
 - イ 奈良市内の動植物の再調査と絶滅の恐れのある品種の確認（生物多様性の保全）
 - ロ アトピー・アレルギーの人をなくしたい（化学物質を減らす）
 - ※ セイタカアワダチソウ（花粉）など外来種により生態系が変化している
- ④ 安定して植物が育つ気候ではなく、温度の変化が激しい（米が不作） ⇒ 地球温暖化
- ⑤ 川が護岸工事により三面コンクリート張りになり、ホタルのエサのカワニナがない
 - イ 山間に行かないとホタルが見られない
 - ※ あやめ池（近畿大学付属小学校のビオトープ作り）や東大寺で見られる

水

- ① 河川の周辺が汚く、整備されていなく、水辺の生態系が壊れてきている
 - イ 河川に沿った道路の整備や河川の公園化ができていない
 - ロ 秋篠川、富雄川などにおける遊歩道の整備とアンダーパス化の実現
 - ハ 佐保川の桜のように歩いて楽しめる道づくり
 - ニ 子供がもっと外で遊べるように、里山や川の整備
- ② 公園内の池のにごり（浮見堂など）
 - ※ 一般的に池は汚いもの
- ③ 河川の水質が工場排水や生活排水により汚れている
 - イ 池や川にメダカを取り戻したい
 - ロ 川で泳いでいる魚があまりいない
 - ハ 秋篠川が汚い（ゴミが多い、水が泡立っている）
 - ニ ため池や川で泳ぎたい
 - ホ 下水道の普及が進んでいなく、（単独）浄化槽の点検が不十分であり、生活排水が河川に流れている
- ④ 西部（特に、学園前周辺）では、開発により里山、ため池が減っている（開発規制を行う）
 - ※ 11年前に富雄川が氾濫したことがある
- ⑤ ゲリラ豪雨に対する排水の備えがない
 - ※ 例えば、東京では地下に貯水タンクを設けている

歴史

文化財

- ① 自動車やバスの排気ガス (Sox や NOx など)、酸性雨により、文化財が腐食されている
 - イ 寺院等の駐車場でバスがアイドリングしている (文化財を排気ガスから守る)
 - ロ 薬師寺等では、走行中の自動車やバスの排気ガスにより、国宝が痛むとの声があがっている
 - ハ 寺院等の建造物や国宝 (仏像) の傷み
 - ニ 奈良公園や世界遺産の付近への自動車の乗り入れを禁止できない (自家用車の乗入れ自粛)
 - ホ ならまちや奈良公園への自動車の乗入れ (ただし、住民を除く) が多すぎる (文化財の保全だけでなく、地域活性化につながる)
 - ※ シカの交通事故死の問題もある
 - ヘ 観光シーズンにおける自動車の量が多い
 - ※ 自動車が走っているところは、人は早く動く傾向がある
 - ト 土、日や祝日の休日に、自動車が渋滞し、文化財に悪い影響を与える (公共交通機関の利用促進)
- ② 寺院や神社を修復 (復元) できるだけの大きい木がない (日本には、巨木が少ない)
- ③ 気候変動が止められていない (竜巻の発生により文化財が壊れる恐れがある)
- ④ 奈良公園のシカにエサをあげている人がいる
- ※ 菓子の入ったビニールのポイ捨てにより、シカが誤食し、窒息死している

景観

町

- ① ならまちを歩いているとき、自動車の走行音が騒音であり、雰囲気がかくずれる (町の雰囲気を残す)
- ② ならまちの民家における駐車場化が進んでいる (民家を残す、緑を増やす)
- ③ 歩きやすい道や自転車道の整備ができていなく、観光がゆっくりできない
- ④ 唐招提寺の入口のところに落書きがたくさんある

自然

- ① 休耕田の放置や個人菜園としての利用が、景観的に見苦しい
- ② 山間では、産業廃棄物の処分場や解体工場が多く、周辺環境を悪くしている

議論を保留したもの

歴史

- ① 歴史都市の防災力の強化（文化財に係る防災の組織化）
 - ※ 文化財は、燃えやすく、動かさないなので、強化しようがない（地震や火事が起こったら全滅）
- ② 歴史的景観を保全（世界遺産（8つの資産群）とそのバッファーズーンの開発抑制）
- ③ 地域（地元）や観光客に奈良の歴史（文化）を知ってもらう
- ④ 平城旧跡を今後もPRし、観光客の流れを途切れさせず、お金を使ってもらい、よく知ってもらうことで、守っていく
- ⑤ 観光客に対して、歴史や伝統、世界遺産のPRが不足している（知ってもらうことが、守ることになる）

その他

- ① 西の京駅からの薬師寺への行き方が少し複雑
- ② 修学旅行生を除くと、10代の観光客が少ない

生活環境

委員：瀬林（リーダー）、栗岡（サブリーダー）、池田、井上^幹、橋本、矢藤 [小松]
事務局員：新井、南田

[]は当日欠席委員

- 奈良市の3Rの実態が市民レベルではわからない
- 不法投棄がある
- 分別しているがその効果がみえない
- パソコンの不法投棄を抑えるためのコストが知りたい
(市が無料で受ける)
- 分別方法が妥当かどうかわからない
- ゴミが多すぎる
- ゴミ処理に費用がかかりすぎる
- 集団回収が一部でしかされていない

- CO₂濃度の測定がされていない。
- 新しい有害物質等の測定がなされていないのでは？
- 大気・水質情報の市民への情報公開が不十分である
- 騒音が気になる
- 地下水の湧水や汚濁の情報がない

- 公共事業にかかっている費用について情報がない
- 環境対策コストがわからない
- 行政が発信する環境情報の伝わり方が不十分である
- コストと費用の確認はどうしているのか

- 外来種の問題が心配だ
- 生物多様性が不十分で悪化している
- カラスの被害がでている

- レジ袋が不必要に大量に配られすぎている
- 路上喫煙防止対策の指定地域を拡大すべきである
- 中核都市になっているのに的確に法令を運営しているのか
- 大型ゴミの依頼電話が繋がらない
- 環境影響評価の制度を確立すべきである（市独自の）

- 放置自転車が減らない
- 豪雨対策が不十分である

- 公園の利用がむちゃくちゃである
- 地域コミュニティが希薄化している

都市環境

委員：石田（リーダー）、北浦（サブリーダー）、上市、河野、三宅 [向出]

事務局員：油谷、松本

[]は当日欠席委員

- 川の汚れがひどい。
- タバコやごみのポイ捨て、不法投棄が多い。
- 生活雑排で川が汚れている。
- 三面工法の河川が汚い。臭い。使いづらい。

- 宿泊観光客が増加しない。
- 建築物の省エネ、耐震性が遅れている。
- 安全な街、耐震、火災、防犯面で安全でない。
- バリアだらけ→バリアフリーが充実していない。

- 町並みの景観が悪い。
- 街の景観が見苦しい。（電線）
- 自動販売機が多い。
- 看板やネオンが多い。
- 夜が明るすぎる。

- 緑が少ない。緑化不足。
- 都市のヒートアイランドが進んでいる。
- 街路樹が少ない。整備されていない。種類が選定されていない。

- 自然・歴史を活かした街づくりが出来ていない。
- 公共施設の効率的な利用が出来ていない。
- 過疎化地域のコミュニティが破壊されつつある。
- 都市と農村との関係が希薄。
- 近くに公共施設、病院等がなく不便。車の移動が多い。

- ノーマイカーデーが実施出来ていない。少ない。
- 排気ガスで文化遺産が劣化する。
- 車が多い。
- パーク＆ライドの適当な駐車場が少ない。
- 騒音が気になる。
- 観光用マイカーが多いので交通渋滞する。
- 街中にマイカー、車が多い。→CO₂排出量が多い。
- 公共交通の整備が進んでいない。→不便

- アイドリングストップが出来ていない。→排気ガスが多い。
- エコ運転が出来ていない。（急発進、空ぶかししている。）
- あまり乗ってないのに大型バスで排気ガスが多い。

- 低公害車（エコカー）の利用が少ない。
- LRTが走っていない。

- バスの本数が少ない。路線がない。バス停が近くにない。
- コミュニティバスの運行が少ない。
- バスが時間通り来ない。（交通渋滞）
- バス料金が高い。
- バス、電車、コミュニティバス、自転車等の公共交通システムが出来ていない。

- 公園、広場が整備されていない。（草がはえっぱなし。）

- 駐輪場がない。（少ない。）
- 交通安全対策が充分でない。
- 自転車の乗れる街づくり、道づくりが遅れている。
- 自家用車優先の街。歩行者にはこわい街になりつつある。
- 自転車道、歩道の整備が充分でない。
- 歩いて楽しい歩道が少ない。
- 緑道、サイクリングロードの整備が遅れている。
- 安全教育の不足→マナーが悪い。

地球温暖化対策

委員：北端（リーダー）、田川（サブリーダー）、清水、鶴保、植本、中村、村木
事務局員：柴田、坂崎

交通

- 駐車中の車がアイドリングストップしていない
- EV車・HV車が普及していない
- 普及率が把握出来ていない
- マイカー利用率が高い
- 低燃費の小型車よりも、高出力のSUVを選んでしまう
- 公共車がECO対策になってない
- 駐輪場が整備されていない
- 自転車道が整備されていない
- モータリゼーションが進みすぎた
- 公共交通が不便になった
- 市役所の公共交通利用

業務用

- 行政の率先行動ができていない
- 奈良市庁舎内の連携ができていない
- LCCで判断していない
- LCCO₂で判断していない
- 断熱住宅が進んでない
- 学校では省エネをするとメリットを感じられるようになっていないため、省エネが進まない

事業者

- 小規模事業者の省エネ意識の低下
- コスト（負担）が合わない
- LCCで判断していない
- LCCO₂で判断していない
- 産業と環境の両立（つげをまわさない）
- エネ抑制と環境の両論性

再生可能エネルギー

- 再生可能エネルギーが普及していない
- 太陽熱利用（温水器）は効率がよいのに普及しない
- 生ゴミのメタン発酵（ガス）
- ゴミの燃焼を止める

生活

- 家庭におけるCO₂排出抑制（省エネ）が進まないこと
- 家庭で省エネが取り組まれていない
- 民生家庭部門のCO₂排出量が増えている
- 家庭内生活が孤人化されている
- 環境に配慮した生活の実践の難しさ
- ライフサイクルコスト（LCC）で判断していない
- ライフサイクルCO₂（LCCO₂）で判断していない
- 生活者の省エネ機器採用意識の低下
- 家のCO₂削減のインセンティブがない
- 断熱住宅が普及しない

削減目標

- CO₂排出量の現状把握が出来ていない
- 家庭部門（自家用車含む）のCO₂排出量が把握できていない（奈良市、県も）
- 省CO₂の目標が設定されていない
- 10年後、市民一人当たりのCO₂排出量はどう見るか

啓発

- エネルギー消費量の意識が低い
- 自然エネルギーへの関心が低い
- 省エネへの意識の高低差が市民にありすぎ
- 温暖化対策についての意識が低い人の実践が出来ていない
- 省エネ（CO₂削減）必要性を認識している人が少ない
- 省エネ（CO₂削減）の必要性を認識した人に対し、省エネに向けた有用なデータ（情報）が提供されていない
- 省CO₂の取り組みの必要性は判るが何をすれば良いか判らない
- 環境教育のしくみづくりができていない

指標

- 夏にアブラゼミの声を聞かなくなった。逆にクマゼミはうるさいくらい。
- 子供のしもやけが少なくなった。（良いことか？）
- 春日山原始林の冬鳥が減った。50m（100m）幅、1 km ロードセンサス結果から

- 河川環境の保全、整備
- 電力（エネルギー）の過剰使用
- 世の中が便利（全体）
- 利便性、経済性と環境負荷との両立は出来るのか
- 焼却工場余熱利用と発電
- CO₂、NO_x、SO_xの排出量は？
- 観光客入込者をどう考えるか

関係機関の連携

- 環境行政の連携が出来てない
- 県、市、市民の連携が出来てない
- 寺社との連携

東部・山間部

- 東山地域の緑資源のC活用策
- 東部・山間における植樹活動
- 森林の吸収

国際化

- 環境に優しいと言っている製品も遠くベトナムやインドネシアから運ばれていると、どうなの？
- バイオエタノールの使用が増えると、熱帯雨林が破壊される（外国から輸入されるとして）